



イノシシ 被害対策 プログラム



集落農地をみんなで守る！



徳島県



イノシシ被害対策プログラムの目指すもの

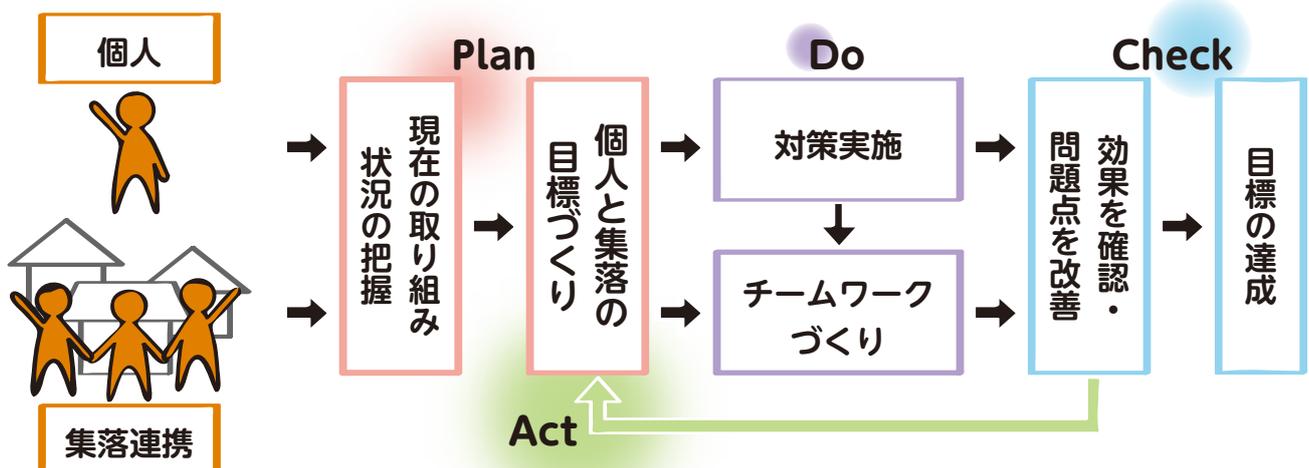
徳島県では、イノシシによる農作物被害が深刻化し、その対策が地域の大きな課題となっています。

そこで、被害対策における農業者個人と集落との役割を明確にし、集落ぐるみで取り組む的確で効果的な被害対策を広めるため、このプログラムを作成しました。

イノシシ被害対策プログラムの特徴と流れ

このプログラムは集落一丸となって頑張り、被害対策を個人の問題にしないことを目指しています。助け合うことを前提に、地域で農地集落を守る仕組みをつくり、解決策を相互に学びながら対策を講じていきます。チームプレーは、それぞれの頑張りがあってこそ。お互いの頑張りを引き出すためには地域の目標、将来像が大切です。

被害対策を進める際は「徳島県イノシシ被害対策マニュアル(平成29年発行)」も併せてご活用ください。



【1】 Plan 点検して計画を立てよう!

- イノシシの食べ物と暮らし・・・ p.3
- イノシシの生活痕・・・ p.3
- 集落点検のススメ・・・ p.5
- イノシシ被害チェックシート・・・ p.7

【2】 Do 処方箋をもとに実行しよう!

- 点検マップを活かして対策しましょう・・・ p.8
- 出没しにくい環境づくり・・・ p.9
- 防護柵を設置する・・・ p.13
- ワナによる捕獲の推進・・・ p.15
- 集落協働で欠かせない「情報共有」・・・ p.17

【3】 Check 効果をチェックしよう!

- ステップアップのための被害状況確認・・・ p.18
- チェックシートによる取り組み成果と課題の確認・・・ p.19
- チェックシート結果の共有と課題整理・・・ p.21

【4】 Act 改善を繰り返し、最適化しよう!

- 更に一歩進み、より良い状況にするために・・・ p.22
- 原因と改善点の指南・・・ p.23
- 技術面の課題解決と最適化・・・ p.24
- 学んで活かそう先進事例・・・ p.26

[1] Plan 点検して計画を立てよう！

まずはイノシシの接近状況を把握し、被害対策の計画作りにつなげます。

1. イノシシの食べ物と暮らし

■イノシシの食べ物

イノシシの食べ物は、草木や竹笹の根やドングリなどの木の实、土の中に隠れ住むミミズやカエル、昆虫などです。また、夏場は草の葉なども食べます。

■注意！イノシシは増えやすい動物です

- ・初産年齢1～2歳と早い
- ・毎年、4～5頭を出産する
- ・うり坊の約半分は生き延びる



2. イノシシの生活痕(被害点検)

■イノシシの痕跡をチェック

被害対策はイノシシの痕跡を読み取り、どのように農地に迫り、被害を出しているのか把握することから始まります。

まずはイノシシの痕跡とその見分け方を紹介します。



シカ 副蹄(ふくてい)は前指の真後ろ。ほとんど残りません。

イノシシ 太くて長い副蹄(ふくてい)が前指の外側に突き出ます。(残らないこともあります)

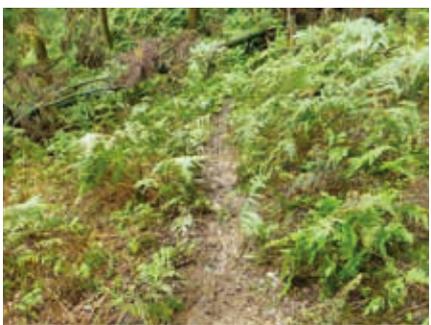
●チェック1

イノシシの痕跡の有無をチェック

痕跡から加害獣がイノシシか他の種か判断します。



足跡
ぬかるみでは爪跡がはっきり残りません。種類の判定にうってつけです。



ケモノ道
通過した際に低木やササなどに泥が付着していることがあります。



擦り跡
泥浴びの後にケモノ道に沿った木々の幹に体を擦り、泥痕を残します。



ヌタ場
寄生虫を落とすために、また暑さをしのぐために水たまりや流水のそばで泥浴びをします。



食痕(掘り起こし)
田畑や畦畔、湿地、山林内で土を掘って、草木の根や昆虫などを食べます。



出産育児床
直径2mほどのドーム型。ススキやササ類、コシダ、ウラボシなどの藪に作られます。

●チェック 2

農地とその周辺環境のチェック

イノシシの痕跡を確認したのはどんな場所でしょう。イノシシが好きな環境は、食べ物が豊富にあるところ、子育てや休息場所として身を潜められる藪などです。また、泥浴びができる浅い水辺にも寄ってきます。



【環境 2】

草むら・耕作放棄地

隠れ場となるススキやササの藪。これらは巢材になるだけでなく、根や葉は食べ物にもなります。

また、イノシシが農地に近づくのに丁度よい環境でもあります。

【環境 3】

農地周辺の森林

農地と森林の間、林縁部が見通しの悪い藪になっていると、被害が発生し易くなります。

【環境 1】 農地・休耕田

肥えた土の中にはイノシシの食物となるミミズや虫などが生息しています。

●チェック 3

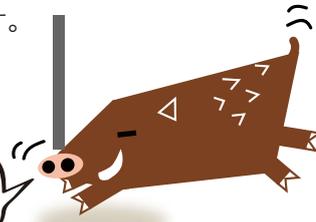
防護柵の破損状況 / 突破方法のチェック

イノシシは足腰や首の力が強く、餌を探す時は鼻を使って土や石を押し上げます。この得意な押し上げる動きで防護柵を壊して侵入します。彼らは人目を避けて夜に出没するので夜行性と思われることが多いですが、実は昼行性で視力はあまり良くありません。匂いと音に頼っている動物と言えます。



押し上げを得意としているため、鼻が掛けやすい金網柵は破られやすいので、資材選びは重要です。視界を奪うトタン柵は接合面の隙間が狙われます。

鼻が掛かれば簡単に突破されます！

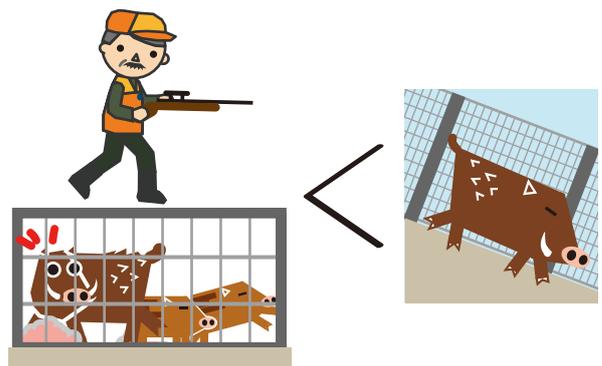


電気柵は、漏電により効果が無くなることがあります。草木の接触や、電線がゆるむことが、漏電の主な原因になります。日頃の確認が大事です。

「捕獲じゃなくてまず防護」が大事な理由

「獣害対策には有害捕獲」という声をよく聞きます。それも大事なのですが、まずは野生動物が集落農地に餌付かないようにすることが優先です。

捕獲作業は危険が伴うため、できる人が限られます。一方、防護なら誰でもできるので、みんなで取り組みます。





3. 集落点検のススメ

獣害対策は農地をまるごと守ることが効果的です！ それには、集落協働が欠かせません。

集落点検では、地区の農家が集まり、皆でそれぞれの農地の防護実態をチェックすることで、住民同士の相互理解が深まり、協働意識が生まれます。獣害対策の課題と解決策を皆で共有して対策にあたるので、「一人の問題、一人の負担」から解放されます。

■集落点検の方法

集落内の農地・果樹園の情報を事前に集め、その後現地を歩いて点検を行います。ここで重要になるのはリーダーや担当など、役割をはっきりさせることです。

チェックシート(7ページ)は、集落点検マップづくり(6ページ)とリンクし、個人と集落、両方の点検で使えます。問題点を把握して、集落ぐるみで一歩ずつ前進しましょう。

点検の流れ

ガイダンス
学習会

集落点検マップ
づくり

チェックリスト
による確認

協議・
実施内容決定

協働実施

■集落点検マップを作成しましょう！

集落点検マップづくりは難しいものではありません。集まった人が知っていること、気になっていることを出し合い、作っていきます。不安に思うことや迷惑にならないかと心配になることがあっても、集落みんなの未来のために、遠慮せず課題を話し合うことが重要です。

集落点検マップの手順は次の通りです。

屋内で



野外で



みんなで
地図に書き込む

集落全体が入る地図を使用し、遊休農地や鳥獣被害があった箇所、防護柵の設置ラインなどを書き込みます。

地図を元に
確認すべき点を
共有する

書き込んだ地図を基に、現地確認すべき所や問題点を皆で共有します。

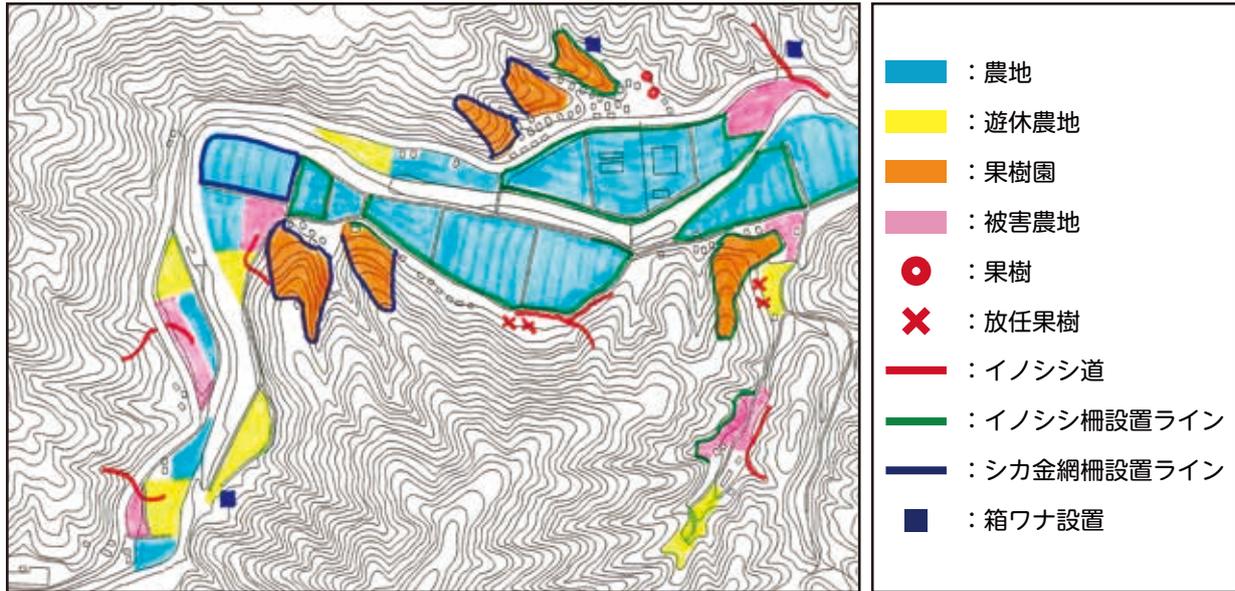
現場の状況を
確認する

守りたい農地や防護柵の破損状況、遊休農地等の様子、捕獲ワナの設置場所を皆で確認しに行きます。この時7ページのチェックシートを用います。

問題点を
地図に書き足す

現場を見ながら、見つかった問題点を点検マップに記入します。

集落点検マップは集落全体が入る地形図を用います。航空写真を見ながら作るのも良いでしょう。下の書き込み例を参考に、作ってみましょう。集落点検マップには防護柵の破損箇所などの情報も書き込みます。



■集落点検マップが完成したら解決策を話し合しましょう！

集落点検マップの完成により、情報が集約されました。いよいよ状況改善のために何を行うか話し合うこととなります。チェックシートにならってそれぞれが誰と組むと効果が上げられるか考えてみましょう。

検討課題には、以下のものなどがあります。

- ・ 餌付けになる放任果樹や野菜くずをなくすために、除去や管理強化ができないか？
- ・ 防護柵の効果を上げるために、見回りを強化するには？
- ・ 捕獲数を上げるために、箱ワナの設置や管理など狩猟者と協力してできることはないか？

集落で協力しないとできないことがたくさんあります。力を合わせて解決していきましょう！

■チェックシートの記入項目が意味すること

チェックシートは、集落点検マップと併せて用いることで課題や弱みを認識し、その対策を考えるきっかけになります。集落点検が持つ意義として次の3つが挙げられます。

- ①適切な対策を学ぶ場
- ②集落の仲間みんなが知っていることを出し合い学びあう場
- ③協働で取り組み、一緒に成長する場

【イノシシを呼び込んでいませんか？】

- ・ 放任果樹（園）や野菜廃棄場に注目する理由
→ 放置された果樹や野菜は、イノシシにとって魅力的な餌です。無防備だとイノシシを誘引し、農業被害や生息数の増加につながります。
- ・ 遊休農地や放任果樹園とケモノの侵入路に注目する理由
→ 遊休農地などは隠れ処や餌場となり、農地へ侵入するルートにもなります。

【農地や集落をしっかり守れていますか？】

- ・ 柵の破損箇所の確認や見回りに注目する理由
→ ケモノの侵入路と破損箇所の情報をみんなで共有すれば、警戒する目が増えて防護効果が高まり、協働で守る気運も育まれます。

4. イノシシ被害チェックシート



チェック段階	個人	集落	質問項目 ※個人で対策に取り組んでいるものは「個人チェックボックス」に✓を記入 ※集落で対策に取り組んでいるものは「集落チェックボックス」に✓を記入 ※カッコには該当する数字や名称、○を入れてください	チェックボックス	
				はい	いいえ
接近の確認	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	イノシシの痕跡が農地で見つかった	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	イノシシの痕跡が農地近くの林 / 草地で見つかった	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	頻繁に使われているケモノ道があり、畦畔や林縁斜面が大きく削れている	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
課題の把握	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	遊休農地 / 放任果樹園がある (遊休年数: 年)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	遊休農地 / 放任果樹園が藪になっている (藪: 粗 ・ 密)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	甘い果実や野菜を栽培している	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	被害作物は水稲のみで被害時期は限定的	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	被害作物は果樹や野菜でも発生し、被害時期は長い	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	農地やその近傍地に野菜や果樹の廃棄場がある (防護している ・ 無防備)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	農地・果樹園の防護柵を越えてケモノの侵入が起きている	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	農地・果樹園の防護柵に破損箇所がある (破損個所数: カ所)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
取組みの把握	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	ご近所と協力して追い払いや被害の発生・防護の情報交換をしている	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	農地被害の見回りを定期的に行っている	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	防護柵の協働設置、管理を行っている	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	防護柵の見回りを定期的に行っている (見回り頻度は約: 日間隔)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

どんな被害にあっていますか

どうすれば被害を減らせるでしょう

誰の協力を得ると良い結果が得られそうですか (例えば隣近所の農地仲間、土木・林業技術者など)

被害作物の収穫・被害時期を書き出し、見回り体制などを整理してみましょう

被害作物	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
(例) 甘藷 トウモロコシ												

Plan
点検

Do
処方箋

Check
効果をチェック

Act
最適化

事例の紹介

[2] Do 処方箋をもとに実行しよう！



1. 集落点検マップを活かして対策しましょう

住民が進める被害対策には大きく3つの視点があります。集落点検から集落と農地の課題や弱点が見えてきました。それを解決・強化することになります。

3つの視点

出没しにくい環境づくり

➡ ・遊休農地や林縁の藪の刈り取り

餌をなくす・餌付けしない
(発生防止と提供防止)

➡ ・果樹管理、放任果樹の伐採
➡ ・廃棄作物の管理、生ごみ投棄中止
➡ ・防護柵の設置と管理による住み分け

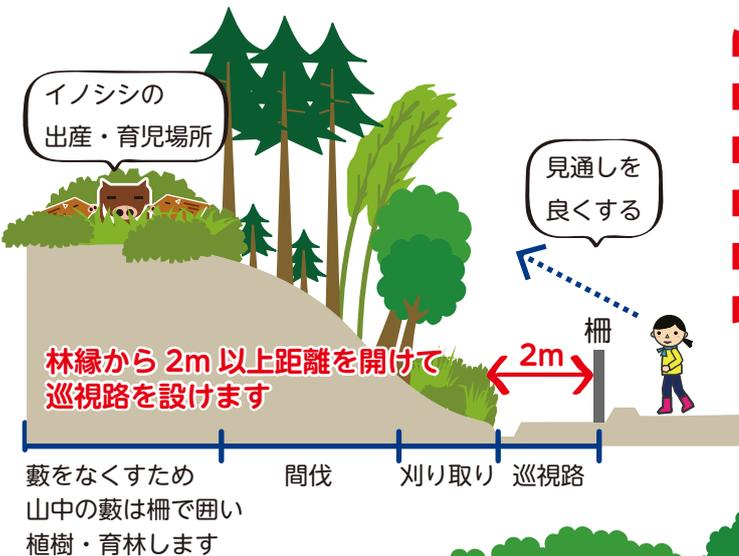
防護しても人里に執着する個体

➡ ・捕獲の推進

人とケモノとの境界線を定める

人とケモノとの境界づくりには防護柵が不可欠です。集落協働で農地全体を囲うようにしましょう。

防護柵は下図の赤線の様に林と農地の間に設置するのが理想的です。また、柵の周りは除草して、外側を巡視路にします。



林縁から2m以上距離を開けて巡視路を設けます

藪をなくすため 山中の藪は柵で囲い 植樹・育林します

間伐 刈り取り 巡視路



防護柵は農地のまとまり(団地)単位で設置

果樹、田畑、作物の廃棄物は柵内に！！

2. 出没しにくい環境づくり

●ステップ1

農地を餌場にしない取り組み【個人編】



■餌場の除去

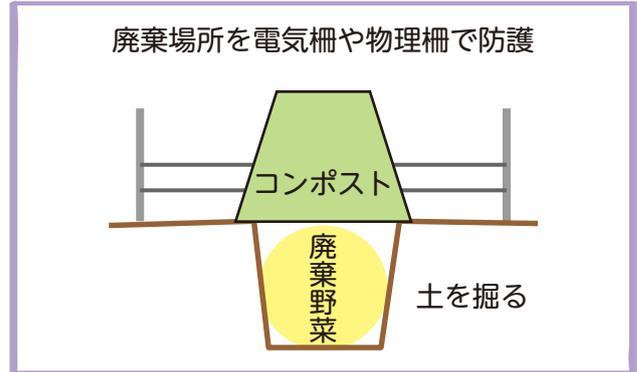
作物がなくても、土づくりを行っている田畑はイノシシにとって良質な食べ物（野草やミミズなど）がある魅力的な場です。無防備でいると、彼らに良質な食べ物を与え、生息数を増やすこととなります。

ここでは、田畑を魅力的にする農作物残渣や野菜くずなど廃棄作物の処理方法をご紹介します。

農地を餌場にしない!!!



放置は餌付けと同じです。
イノシシを増やさないため、しっかりと穴を掘り廃棄場所を限定して管理しましょう。



例えば、廃棄場所にコンポストを用い、用心として電気柵や物理柵で囲って、イノシシに荒らされるのを防止します。

■食べられにくい農作物の栽培と作付けの工夫

イノシシが好まない作物を、農地の外縁や林縁に近い場所に作付けすると目隠しになり、効果的です。防護柵と併用して防衛します。

イノシシはシカに比べて好まない作物が多くあります。でも油断は禁物です。野生動物は食べるものに困ると、苦手なものでも食べ始めることがあるからです。防護柵による守りは不可欠とお考えください。

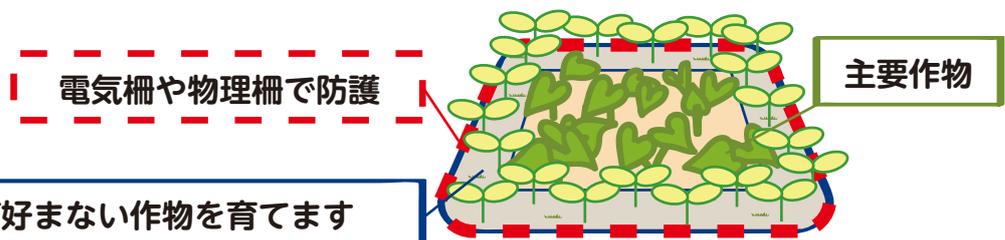
イノシシによる被害の少ない農産物

トウガラシ・コンニャク・ゴボウ・シソ・白ネギ
・ウコン・ニンニク・パプリカ



比較的被害の少ない農産物

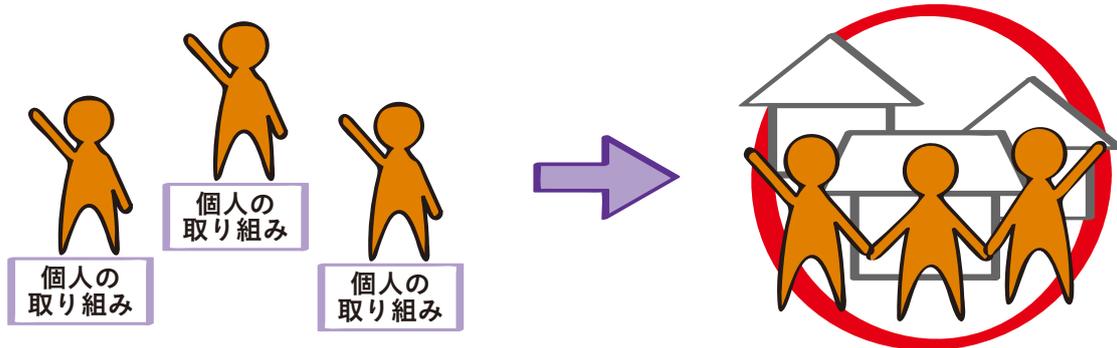
ピーマン・ショウガ・ミント・バジル・白菜・オクラ



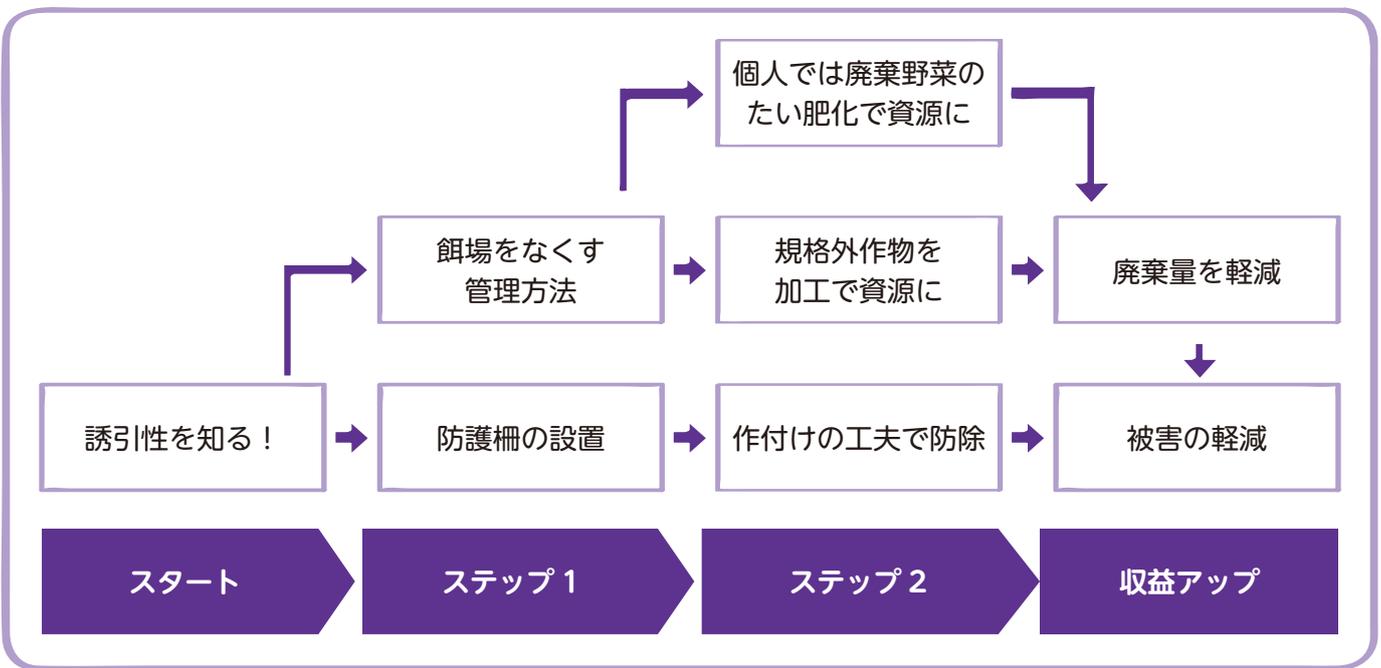


■農地を餌場にしない取り組み【集落での対策編】

個々の努力だけでは、自分の農地を守ることはできても、集落へのイノシシの侵入を減らすことはできません。重要なのは集落全体で餌場を無くすことです。集落みんなの問題として解決しましょう。



連携から集落協同へ



右の表は、徳島県におけるイノシシ被害にあいやすい作物の収穫・被害時期です。

どの時期にどこの農地で警戒が必要か、どの時期に廃棄作物が多く発生し、集落での協働管理に注力しなければならないか、などを把握し、ルールを作ります。

廃棄場所は、餌付け防止のため電気柵や物理柵で囲い、集落連携で管理を徹底します。

		春	夏	秋	冬
東部	たけのこ	■	■	■	
	とうもろこし		■	■	■
	水稲			■	■
	甘藷	■			■
	温州みかん			■	■
西部	たけのこ	■	■		
	水稲		■	■	■
	馬鈴薯	■	■	■	
	甘藷	■		■	■
南部	水稲		■	■	

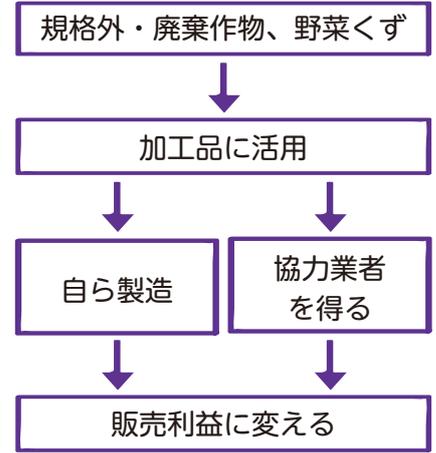
●ステップ2

損を得に変える取り組み



規格外の野菜や果実は、美味しさをもっていながら廃棄されます。しかし、加工品にすれば、その美味しさを価値に変えることができます。また、たい肥としても活用できます。

規格外の野菜や果物はレストランや食品加工場などに販売されるケースがありますし、自ら加工品を製造している集落もあります。農家の6次産業化は資金や人手の面で負担が大きいので、集落を超えた範囲で、販売先や加工製造を担ってくれる協力者を見つけましょう。



ドレッシングや野菜ペーストに加工・販売し、成功している例もあります。活用を工夫してみましょう。

●ステップ3

農地周辺の隠れ場所をなくす



■イノシシが藪を好む理由

遊休農地と接した林縁などの藪は、イノシシが身を隠す格好の場所です。

イノシシが藪を好む理由には、以下のことが挙げられます。

- ・身を潜めて人の様子を伺う格好の場所である。
- ・繁茂したササやススキ、低木の根は食べ物でもある。
- ・藪は外敵の侵入を阻み、侵入があっても物音ですぐに気付ける、安心できる空間である。
- ・藪をつくるススキやササ、コシダなどは出産床の材料になり、出産保育場として好適である。



■除去すべき藪の優先順位

- ①被害が発生している農地に近い藪（遊休農地を含む）
- ②農地への侵入経路になっている藪
- ③農地と接した林縁の藪や、刈り取りによって見通しが改善できる所
- ④出産床が設けられそうな巣材植物がたくさん茂った尾根など乾燥地の藪



① 潜みやすい放棄農地と藪



② 侵入路となりやすい草地と藪



④ 出産床になりそうな環境と藪

■藪をなくす草刈りの時期と頻度

イノシシが潜む藪をなくすには、年2回以上の草刈りが必要です。低木やササの繁茂が著しい場合は、火入れや中型機械除草機（ハンマーナイフモア）、または重機による表土の剥ぎ取りを行うのが効果的です。

草刈りで抑える場合は、根にためた養分で伸びきる時期を狙います。ササなら6月、ススキなら10月が刈り取り実施適期です。

年1回：ススキやササの藪になります。

年2回（6月と10月に実施）：腰高ほどの草丈を維持できます。

年3回以上（春から秋にかけて行います）：膝下高を維持できます。

草刈りの頻度で変わる藪や装置の様子の違いを、写真で示しました。



年1回



年2回



年3回

■草刈りの頻度と草地管理

「年2回は大変。まして年3回は無理。」と思う方もいるかもしれませんが、しかし、年3回の刈り取りが実施できれば、その後は柔らかい草しか生えなくなります。それなら力の無い方や、慣れない非農家でも草刈り作業に当たることができます。

どのようなメンバーで草刈りに当たるか、その地域の状況も考慮して草刈り頻度を決めましょう。

■草刈り刃の選び方

草刈り機には電動式とエンジン式があり、それぞれ特徴があるので、状況や使う人にあわせて選びます。

【電動式】

- 軽量で取扱が簡単、高齢者や力の弱い人向き
- 騒音が小さい
- 充電式でコストが低い
- × 連続使用時間 30分から1時間と短い
- × 充電には電源が必要で、充電中は作業が出来ない

【エンジン式】

- 高速回転での継続時間が長く、刈り取り効率が良い（力の強い人向き）
- 燃料さえあれば継続使用ができる
- × ガソリン、混合油の費用が掛かる
- × 騒音が大きく、熱を発する上に電動式に比べて重い

低木やササの混じる藪を刈るには、電動式より力のあるエンジン式が適しています。刈刃の選び方は、表に示した通りです。

草丈	草木の種類	草刈り刃	排気量
30cm以下	畦畔に生える 柔らかい植物	ノーマル	23~25cc未満
		ナイロンカッター	26cc以上
1m未満	チガヤ	チップソー	26cc以上
1m以上	ササ/ススキ	チップソー	30cc以上

3. 防護柵を設置する



個人



集落連携

●ステップ1

まず設置ラインを決めましょう



外側に巡視路を設けると、誰でも見回りができます。

餌場をなくし、出没しにくい環境づくりと並行して、防護柵の設置を進めます。柵の設置ラインは、集落点検マップで集めた情報を活用し、農地の利用状況と将来性を勘案して決めます。設置ラインは左の写真のように巡視路を柵の外側に併設し、維持管理が楽にできるようにします。

また、この巡視路を犬の散歩道などに活用することで、獣害防止効果が高まります。

●ステップ2

設置後の維持管理方法を決めましょう

連携・協同で体制づくり



得意や強みを活かして連携

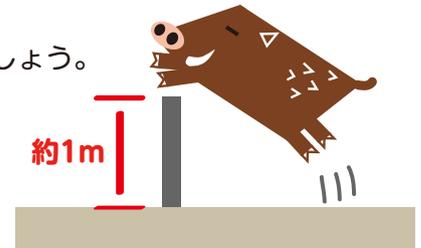
集落で防護柵を設置する前に、見回りの順番や担当内容、修理分担金など想定される事態の対応について、約束ごとを決めておきます。最初から完璧には出来ないので、話し合いで解決しながら、取り組みを醸成させます。

設置ラインの検討と管理について集落の意見がまとまったら、柵の種類を選びましょう。

イノシシの身体能力を知りましょう

イノシシにも弱みと強みがあります。それらを考慮した柵を設置しましょう。

- ・助走なしで1mの塀を越える
- ・鼻が利くだけでなく鼻先で70kgの物を動かせる
- ・柵と地際の間隙を探し、くぐって侵入する
- ・視力は0.1を下回り、青色は見えるが赤色は識別できない
- ・毛が厚く電気を防ぐので、電気柵の電線は鼻に当たる高さ(20cm間隔)にする。



防護柵	資材選びの注意点	囲い方などのポイント	対象野生獣
トタン板	柵は高さ80cm以上がおすすめ (シカ対応には200cm以上)	つなぎ目にすき間を作らないようにする	イノシシ ○ シカ △
金網フェンス	金網のすり抜けを防ぐため目合い幅10cm未満がおすすめ	対象獣に応じた柵高に注意 地際と接合部をしっかりと止める	イノシシ △ シカ ◎
ワイヤーメッシュ	イノシシ用は鉄線の径5mm以上で 格子の幅は8cm以下がおすすめ	イノシシには1m以上、シカには2m以上の柵高にし、接合部は重ねてしっかりと止める 上部を折り返すと侵入防止効果が高くなる	イノシシ ◎ シカ ◎
ネット	シカには金属線を編み込んだ、目合い5cm以下の獣害専用ネットを使用	侵入方向にネットをスカート状に垂らして侵入防止を図る	イノシシ × シカ △
電気柵 (電線型・ネット型)	イノシシ・シカ用は金属線を編み込んだポリワイヤーや、ネットを使用	漏電防止のため除草が必須 見回り確認を行い、断線による漏電にも注意する	イノシシ ◎ シカ ◎

●ステップ3

柵の特徴を知り、設置を工夫しましょう

【金網柵】

中が見え、匂いも通り抜けるので、イノシシを引き寄せます。そこで、地面との接地面に隙間を創らず、金網の接合部分は余裕をもって重ね合わせ、支柱にしっかり結束します。

金網上部を外側に折り倒すと（丸型写真参照）、視力が悪いイノシシは距離がつかめず、飛び越え防止効果が高まります。

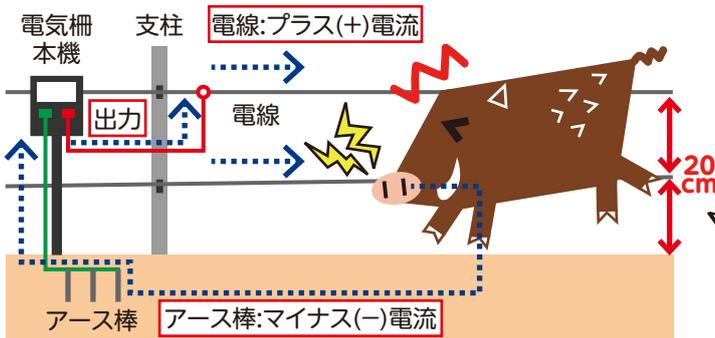


防護柵はつなぎ目・地際が大切です。すき間をつくらないように、しっかりと固定します。

左上：金網上部を外側へ折り返す。

イノシシには、鉄線が太く強固な金網がおすすめです。金網を連結すると、かなりの重さになり、イノシシでも容易には押し上げられません。

【電気柵】



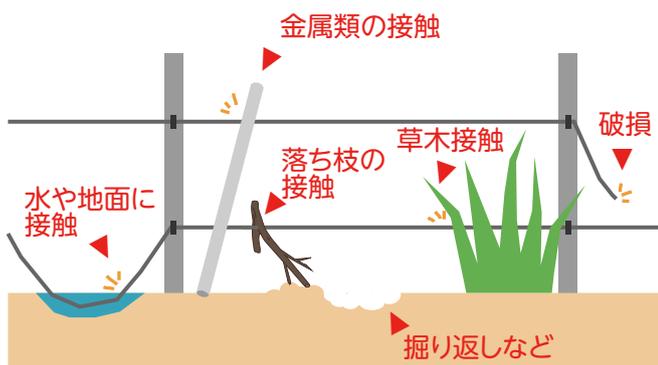
注意
通電性の無いコンクリートやアスファルトなどの地面では、電気は流れません。



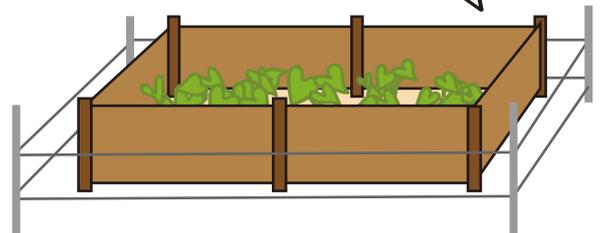
正常に電気が通ってこそ効果が発揮されます。イノシシの毛は電気を通しません。そこで、電線を鼻に当てるため、電線を張る間隔を高さ 20cm にします。

注意事項

- ・降雨や積雪、風倒木などにより、漏電や浸食などの発生が起き、侵入路ができる原因となります。天候が回復したら見回りをしましょう。
- ・日頃からテスターを使用して電圧が落ちていないか確認しましょう。
- ・破られ易い場所は物理柵と併用し、侵入防止効果を高めます。



支柱が倒れても漏電の原因にならないように、トタンと電柵は 40cm 以上離します。



4. ワナによる捕獲の推進



個人



集落連携

■狩猟者との連携

獣害対策の基本は、次の3つで構成されます。

- ① 餌場をなくす
- ② 防護柵設置などで防除に努める
- ③ 加害個体の捕獲

狩猟者との協働

- 協働①：檻の設置場所を被害を基に狩猟者に提案
 協働②：土地所有者との交渉や、箱ワナの設置に協力
 協働③：ワナの見回り（当番制にして順番を決める）
 協働④：餌の補給、ワナの破損や捕獲個体の有無を確認し、狩猟者に連絡

イノシシの雌は毎年4~5頭を産むため、とても増えやすい動物です。

また、臆病な性格は、周辺の様子をうかがい学び取る知能からくるものです。手強いイノシシから農地を守るには、作物を食べる癖がついた個体を捕獲することも必要です。そこで、狩猟者と協力して捕獲を推進することが望めます。

■徳島県での捕獲実施体制

徳島県では、「徳島県鳥獣被害防止センター」を中心とし、獣害対策を専門とする機関、部署を設け、県内の行政担当部署や関係機関が連携し、獣害対策の推進を図っています。集落住民による獣害対策を、鳥獣被害対策指導員・市町村・狩猟者がサポートします。獣害に困っているのは集落住民ですので、捕獲は専門家の作業と割り切らずに狩猟者に現状を伝え、捕獲の推進のためにできることを率先して担いましょう。

■一般的な捕獲方法

狩猟や有害捕獲のうち「箱ワナ」と「くりワナ」について、それぞれの特徴と集落住民ができる狩猟サポート作業を下表に示しました。安全確保のため、住民ができる捕獲サポートは、箱ワナの見回りと給餌が主となります。

※捕獲には狩猟免許の取得が必要です。

わな	捕獲数	誘引	特徴	住民ができること	問題点
箱ワナ	複数頭	餌寄せ	設置に人手と時間が必要	<ul style="list-style-type: none"> ・新鮮な餌の補給や取換え ・見回り ・トリガーの破損がないか確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・エサ代 ・見回り当番（安全性高い）
くりワナ	1頭	通り道	1人でできる	<ul style="list-style-type: none"> ・捕獲個体の有無のチェック ・ワナの状態を確認 	捕獲個体がいる場合は危険性がある



仕掛けの一例
 体が触れると、扉の止め金が開放されます。

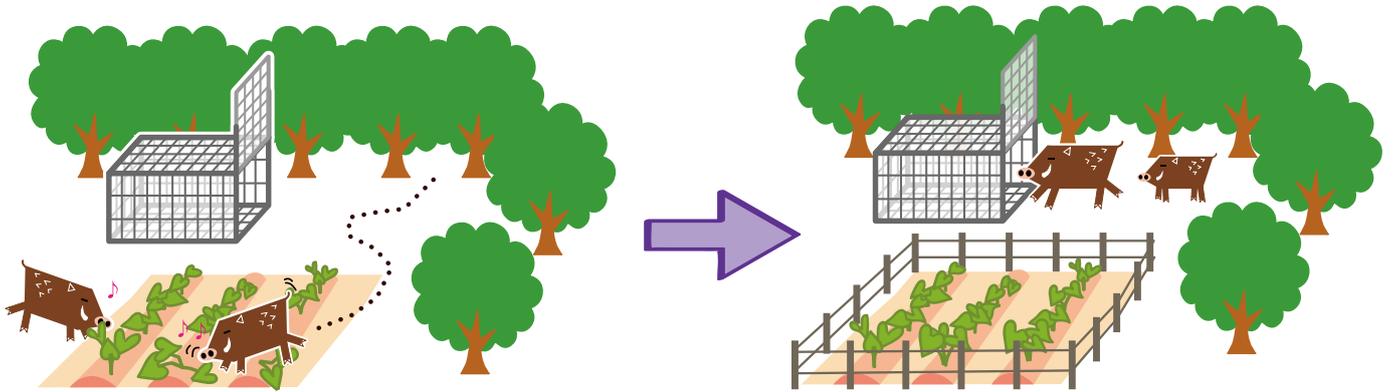
寄せ餌で箱ワナに導きます。
 春はタケノコ、秋~冬はドングリよりも魅力のある餌を選びましょう。



■箱ワナの見回り

くくりワナは、ケモノが捕まった時に暴れて危険です。このため、集落の人が捕獲に協力する場合は、箱ワナに限定するのが現実的です。

集落の住民が担えることの一歩は、農地をしっかりと守り、捕獲効率を上げることです。



効率よく捕まえるには、農地をしっかりと囲み、作物が食べられないようにします。

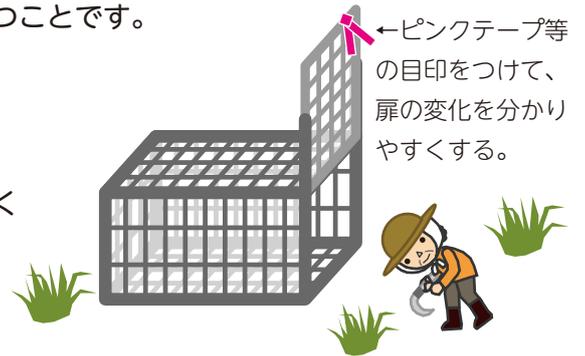
【箱ワナの見回り】

イノシシが好む野菜や果実（安価で日持ちの良いもの）を用います。規格外の作物も有効活用します。ポイントは、餌の新鮮さを保つこと、そして檻を清潔に保つことです。

不潔な檻、腐りかけの餌は好みません。

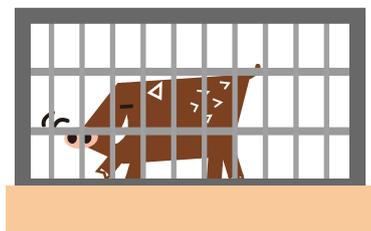
通常の見回り作業は以下の通りです。

- ①仕掛けの故障がないかチェック
- ②餌不足なら給餌→新鮮な餌に交換し、周囲に寄せ餌をまく
- ③草刈り、落枝を取り除いて故障が起きないようにする



【捕獲個体を見つけた時の対応】

ゆっくり接近し、動物の種類を確認します。近づきすぎると暴れて危険なので、距離を保って安全確保します。



発見の連絡



狩猟者

■自動撮影カメラ（センサーカメラ）を活用して捕獲と被害対策を強化！

箱ワナの捕獲効率を上げる方法に、自動撮影カメラの利用があります。

自動撮影カメラは、赤外線や熱を感知して自動でシャッターを切るカメラです。いつ、どの動物が、どのように接近・侵入したかが分かるので、農地周辺にイノシシが来ているか、どこを歩いているかを知ることができます。

カメラによる情報を基に箱ワナの設置場所を決めたり、離れた場所からでもワナにかかっているかが分かるので、見回りの回数を減らす助けになります。また、カメラによる情報は防護柵の管理にも役立ちます。



【特徴】

- ・24時間稼働し、動画も撮影できます。
- ・ケモノの農地侵入の方法や、防護柵や捕獲檻への反応などを調べることができます。
- ・単3電池タイプが多く、長持ちで取り扱いが簡単です。

【使用方法】

- ・足跡が多いケモノ道に設置します。
- ・防水構造であっても雨よけケースを用いると故障が少なく、おすすめです。
- ・撮影したい獣道や防護柵から3mほど離すのが適当です。(近過ぎると写りにくい)
- ・日当たりの良い場所は草木の小さな揺れの温度変化にも反応して撮影されるので、夜間のみ稼働する設定がおすすめです。
- ・カメラの目前に風で揺れる草木があると、その動きを感知して撮影が繰り返されるので、カメラ前の揺れる草木は除去します。



5. 集落協働で欠かせない「情報共有」

地域で協力して被害防除と捕獲推進で成果をあげるためには、情報共有が欠かせません。各々が持っている情報を出し合い、対策を皆で考えると良い解決策が見つかります。以下は情報の活かし方の例です。

被害発生状況の情報	農地周辺の二次被害を防止	誘引性の高い餌と箱ワナの仕掛けの改善で捕獲成功を狙う
イノシシ出没情報	防護柵の破損箇所等の確認	破損箇所からの侵入個体がいるなら、檻を設置
防護柵や防除機器の破損情報	修理・補修に早く着手できる	出没時期や頭数、頻度の情報があれば捕獲効率がアップ
効果的な防護情報	成功事例を共有して、効率よく防除	・地域に最適な柵を普及させる ・加工品の開発
頑張る農家の情報	防護効果の高い柵作り、野菜の加工技術など	

■「とくしま鳥獣害被害対策情報広場」をご存知ですか？

徳島県が解説するインターネット上の鳥獣害対策の情報公開サイトです。以下のような鳥獣害対策に関する様々な情報が掲載されています。ご活用ください。

- ・鳥獣害対策マニュアル
- ・鳥獣害対策指導委員のリスト（連絡先）
- ・農業被害の統計情報
- ・捕獲実績などの統計情報
- ・モンキードックの利用



[3] Check 効果をチェックしよう！

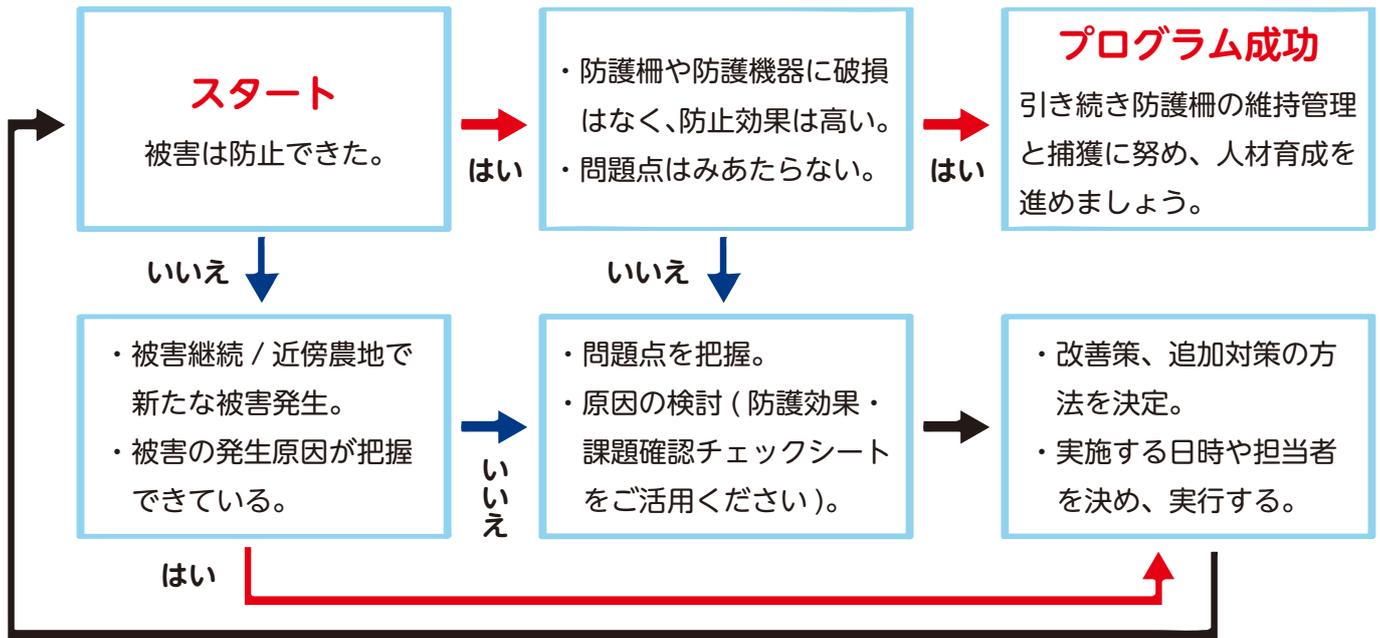


1. ステップアップのための被害状況確認

■被害状況の確認

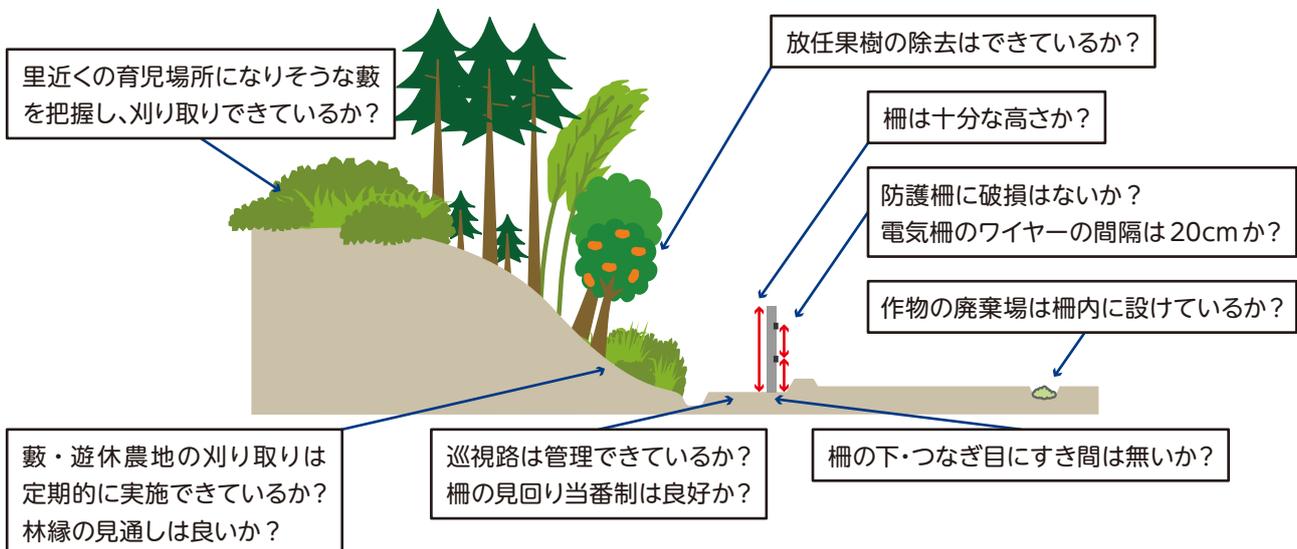
より一層の成果をあげるためには、取り組み効果と改善に向けた課題の把握が必要です。そのための防護効果・課題確認チェックシートを19ページに示しました。改善を図るためにも、ぜひ活用して課題を整理しましょう。

大事なのは、チェックだけで終わらないことです。問題点が分かれば情報を集落で共有し、改善の作業計画を決めます。単独作業は疲れやすく、気持ちが続かないため、2人以上で作業を行うことを基本としましょう。2人以上なら、まさかの事故対応も可能になります。



■チェック項目の説明

- ①まずは、当プログラムの前半でイノシシの痕跡を紹介しました。それを参考に農地への侵入個体、農地や周辺に出没する個体がイノシシであるか判断します。
- ②痕跡や被害状況から、被害発生の傾向を掴み、被害防止に必要なことを確認します。イノシシ被害を無くすには、集落連携が欠かせません。チェックシートの書き込みは集落のメンバーが揃った場で行いましょう。



2. チェックシートによる取り組み成果と課題の確認



■防護効果・課題確認チェックシート

取り組み段階	個人	集落	質問項目 ※個人で対策に取り組んでいるものは「個人チェックボックス」に✓を記入 ※集落で対策に取り組んでいるものは「集落チェックボックス」に✓を記入 ※カッコには該当する数字や名称、○を入れてください	チェックボックス	
				はい	いいえ
接近と侵入の確認	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	農地周辺のイノシシやシカの生息や出没、行動把握の見回りをしている	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	取り組みにより成果がでている（実施メニュー： _____）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	防護柵には破損している箇所はない（侵入口がない）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	防護柵以外の方法で守っている農地や周辺の果樹・農地に被害はない（防護方法： _____）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
対策維持	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	防護柵の維持管理のため（協働で）見回りを行っている	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	廃棄野菜の対応としてコンポストやたい肥場を管理し餌付を防止している	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	現状把握により集落点検マップを更新し、効果や問題点を集落で共有している	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	鳥獣害対策を学び、対策を話し合う機会を設けている	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	鳥獣害対策の問題点が見つかったら、当番や総出により早めに解決している	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
対策改良	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	被害防止のために農地周辺の藪を毎年刈り払い、見通しを良くしている	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	防護柵の効果を改善するために設置ラインの見直しや改善に努めている	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	鳥獣害防止の専門家や指導員、行政の協力を得て良策を学んでいる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	鳥獣害防止の補助金や制度を利用して、資材の購入や改善に努めている	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	鳥獣害対策のために住民グループを結成して、責任をもって改善を図っている	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	狩猟者との連携を強め、餌播きの改善や捕獲檻の管理、捕獲場所の提案など、捕獲効率を上げる取り組みを推進している。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	自らの農地などで捕獲を行っている	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
未来づくり	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	ジビエの利活用に取り組み、収益につなげている	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	規格外作物を活用し、加工品の開発・販売を行い増益に取り組んでいる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	遊休農地の活用のために新規就農者を内外から受け入れ、耕作放棄地の減少を進めている	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	遊休農地を地域活性化のためのイベント会場や新しい試みなどに活用している	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

被害作物の時期を書き出しましょう。対策前（7ページ）と比べて変化はありましたか？

被害作物	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
(例) 甘藷 トウモロコシ												

■チェックシート 項目について

効果 / 課題確認チェックシートは、被害防除の成果と改善に向けた課題を確認するものです。4つの項目それぞれの取り組み段階を確認しましょう。

項目	「いいえ」が多い場合	必要な視点	対策の例
接近と侵入の確認 集落の農地や遊休農地でのイノシシの接近・被害発生を再確認し、集落診断後の取り組みが成果を上げているかを確認するものです。	被害の発生する原因が生じています。	被害の発生原因を把握し対策を考えましょう。	<ul style="list-style-type: none"> ・自動撮影カメラ等による獣類の接近や防護効果の把握 ・放任果樹の伐採 ・防護柵の管理と改善 など、被害の発生原因を把握し対策を考える必要があります。
対策維持 集落に協働の仕組みがあり、上手く機能しているかを診るものです。	集落ぐるみの協働があまり進んでいないこととなります。	役割分担の仕組みと強化が必要です。	<ul style="list-style-type: none"> ・防護柵や箱ワナの見回り強化 ・維持管理の当番制の見直し ・農地の現況や防護に関する情報共有を推進 など、役割分担を強化し、特定の人に負担が片寄らない仕組みづくりが大切です。
対策改良 集落内に留まらず、専門家や行政などと積極的につながりを持ち、学びと成長に取り組んでいるかを診るものです。	専門家や行政との協働があまり進んでいないこととなります。	支援してくれる専門組織や個人を得ることを考えましょう。	<ul style="list-style-type: none"> ・被害防止を促進するための学習会や改善策の検討実施を定期的に行う ・行政の設けた仕組みの積極的な活用 ・専門家や行政と連携し現地に技術を導入する など、まず県や市町村に相談しましょう。
未来づくり 集落、地域の未来や夢を描き、元気につながる新しい取り組みを行っているか、支援者、移住者などの受け入れを推進しているかを診るものです。	現状を変える新しい取り組みがあまり行なわれていないこととなります。	収益を上げる方法や他地域からの協力者を得る方法を考えてみましょう。	現状維持でよいか、何か始めるかは集落次第です。新しいことを始める場合、不安に思う意見も出るかもしれませんが、最初は数名の有志グループから始まり、集落全体に波及することはよくあることですので、先進地から学び、一歩踏み出すことも必要です。



3. チェックシート結果の共有と課題整理

現在の課題や足りないものを話し合っ整理しましょう

改善のために行うべきことを整理し、人材確保や役割分担のルール改善を話し合っ実行計画を立てましょう

■集落における情報共有とその活かし方・留意点

あなたの持っている情報が、地域のためになるかもしれません。例えば、農地に出没するケモノのこと、防護柵の破損のことなど、持っている情報を出し合っ対策を皆で考えると良い解決策が見つかります。

- ・話し合いは公平に行い、アイデアは肯定的に受け止めて、活用を考えます。地区のリーダーや取りまとめ役を決めて、実行計画をまとめます。
- ・この時、具体的な実施内容、日時、各作業の担当者を決めましょう。
- ・当番制などで担当者が課題解決に当たる場合は、数名のチーム編成として、一人だけが負担を抱え込むことが無いようにしましょう。

【現状確認① 被害情報の活かし方】

- イノシシがよく出没している所がある
- 防護柵の破損箇所を見つけた
- 被害が大きい農地がある
- 放任果樹や遊休農地がある

それぞれの被害が関係していないか、調べて改善する。

- ・侵入に注意し防護柵を強化する場所
- ・捕獲を推進する場所
- ・優先的に対策が必要な場所

【現状確認② 対策情報の活かし方】

- 防護柵の構造や設置を工夫している
- 効果を上げている防護柵がある
- 被害にあいにくい作物の栽培方法を知っている
- 効果的な防護方法を知っている

手本となる対策を共有し、積極的に取り入れることで、イノシシにとって魅力のない集落・農地にできる。

【それぞれの得意ごとや人脈などの活かし方】

- 上手にたい肥を作る方法を知っている
- 規格外野菜を美味しい加工品にする調理法を知っている
- 野菜・果物の加工に詳しい / 加工業者とつながりがある

集落の未来づくりを話し合うきっかけになり、アイデアが浮かんだり、人脈を活かす方法が見つかる。

【4】 Act 改善を繰り返し、最適化しよう！



1. 更に一步進み、より良い状況にするために

効果 / 課題確認チェックシートの結果から、対策を維持、発展させていくために課題を整理します。下図を使って到達点と原因を把握しましょう。

実行できているものにはチェックを、できていないものは理由を考えて、右の A から E を記入しましょう。

Plan 点検	集落診断によりイノシシ対策をスタート 実施内容が成果をあげている	いいえ	林縁や藪の草刈りを実施	<input type="checkbox"/>	A : 人手不足 B : 資金不足 C : 心情的なもの (合意形成の難航・やる気) D : 技術と人手不足 E : その他の理由
			遊休農地の草刈りを実施・管理	<input type="checkbox"/>	
Do 処方箋	はい	いいえ	斜面地の足場設置などで草刈り効率を改善	<input type="checkbox"/>	
			放任果樹の伐採除去を実施	<input type="checkbox"/>	
Check 効果をチェック	対策維持が できている	いいえ	廃棄野菜の管理と防護柵設置	<input type="checkbox"/>	
	はい		いいえ	集落診断の定期的な実施	
はい		いいえ		防護柵の見回りの継続	
	はい		いいえ	防護柵修繕を協働で実施している	
はい		いいえ		廃棄野菜を適切に処分できている	
	Act 最適化		対策の改良が 進んでいる	いいえ	
はい		いいえ	より守りやすい防護柵ラインの検討		<input type="checkbox"/>
	はい		いいえ	より効果の高い防護柵の検討・導入	<input type="checkbox"/>
はい		いいえ		専門家や行政との連携・支援の獲得	<input type="checkbox"/>
	はい		いいえ	狩猟者との連携による捕獲効率の向上	<input type="checkbox"/>
Act 最適化		未来づくりの取り組みが できている		いいえ	捕獲個体のジビエ利用
	はい	いいえ	規格外作物による加工品開発・販売		<input type="checkbox"/>
はい			いいえ	遊休農地活用による営農促進	<input type="checkbox"/>
	はい	いいえ		地域活性の活動に遊休農地や空き家を活用	<input type="checkbox"/>

プログラム成功！！
現状を維持し、後継者の確保や人材育成を進めましょう。

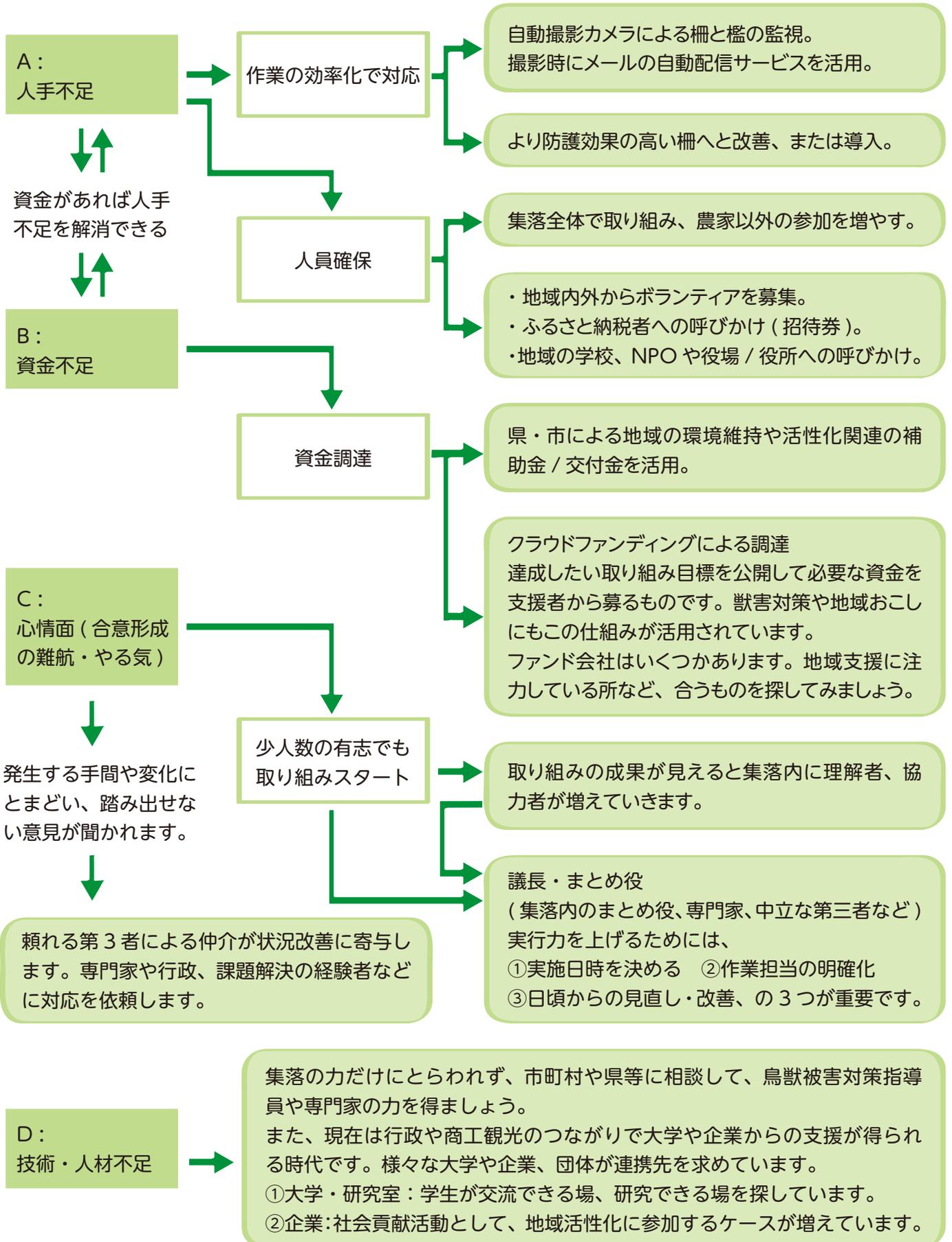
E の場合、理由を書き出して集落で解決策を検討しましょう。



集落連携

2. 原因と改善点の指南

原因は、大きく A～D の 4 つに分けられます。ここではそれぞれの課題を克服するためのヒントを紹介します。



Plan 点検

Do 処方箋

Check 効果をチェック

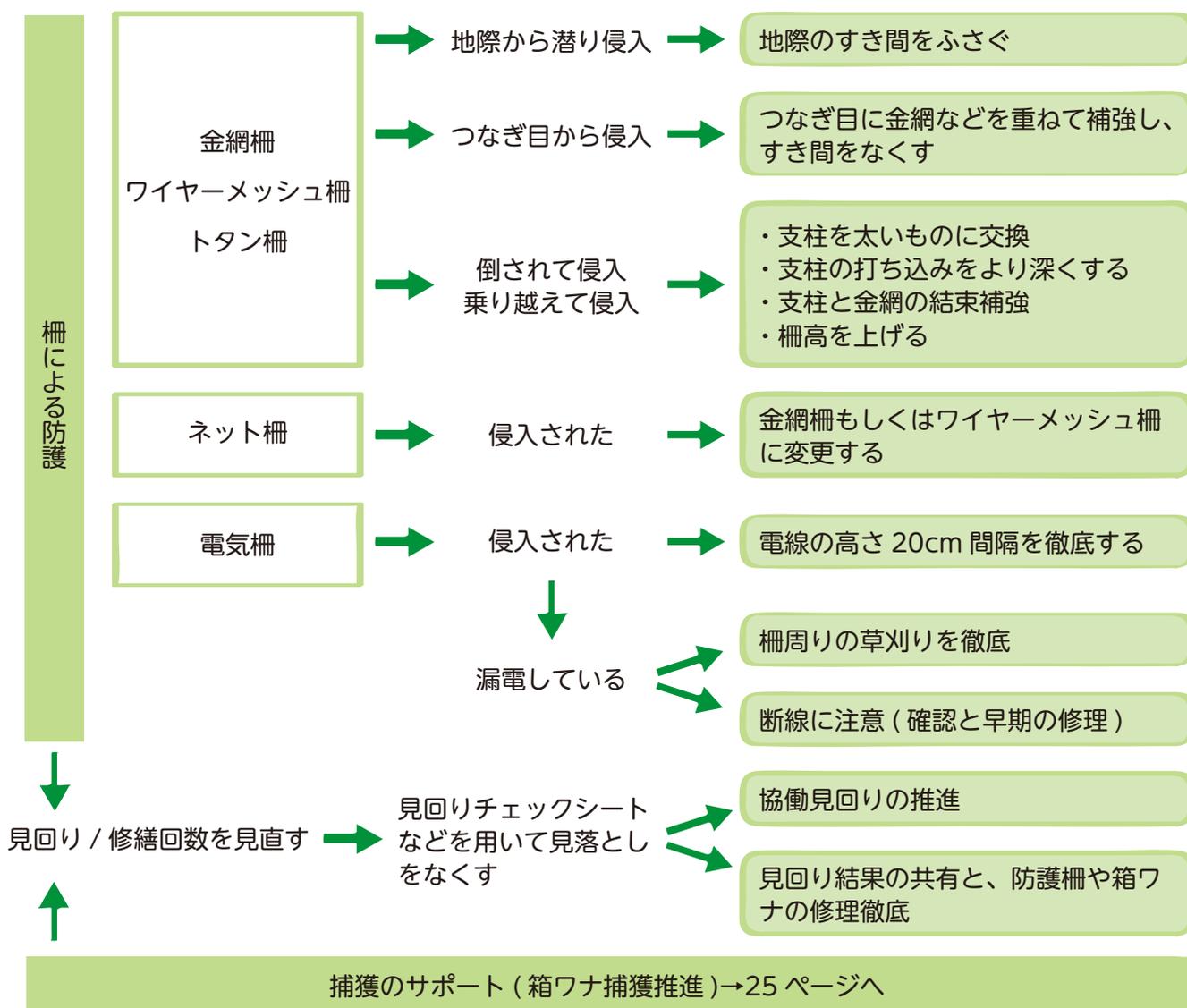
Act-最適化

事例の紹介

3. 技術面の課題解決と最適化

【まずは集落でできること】

防護柵と箱ワナに関する課題と対策をまとめました。13 ページの表も参考にしながら、解決方法を確認してみましょう。



【狩猟者との連携強化による捕獲の効率化】

防護だけでは、生息数が増えやすいイノシシに対応するには限界があります。近年は人馴れした野生イノシシが増えており、出会った際に危険を感じるケースが全国で増えています。普段から人を恐れるようにするためにも、狩猟者と連携して捕獲に取り組むことが重要です。

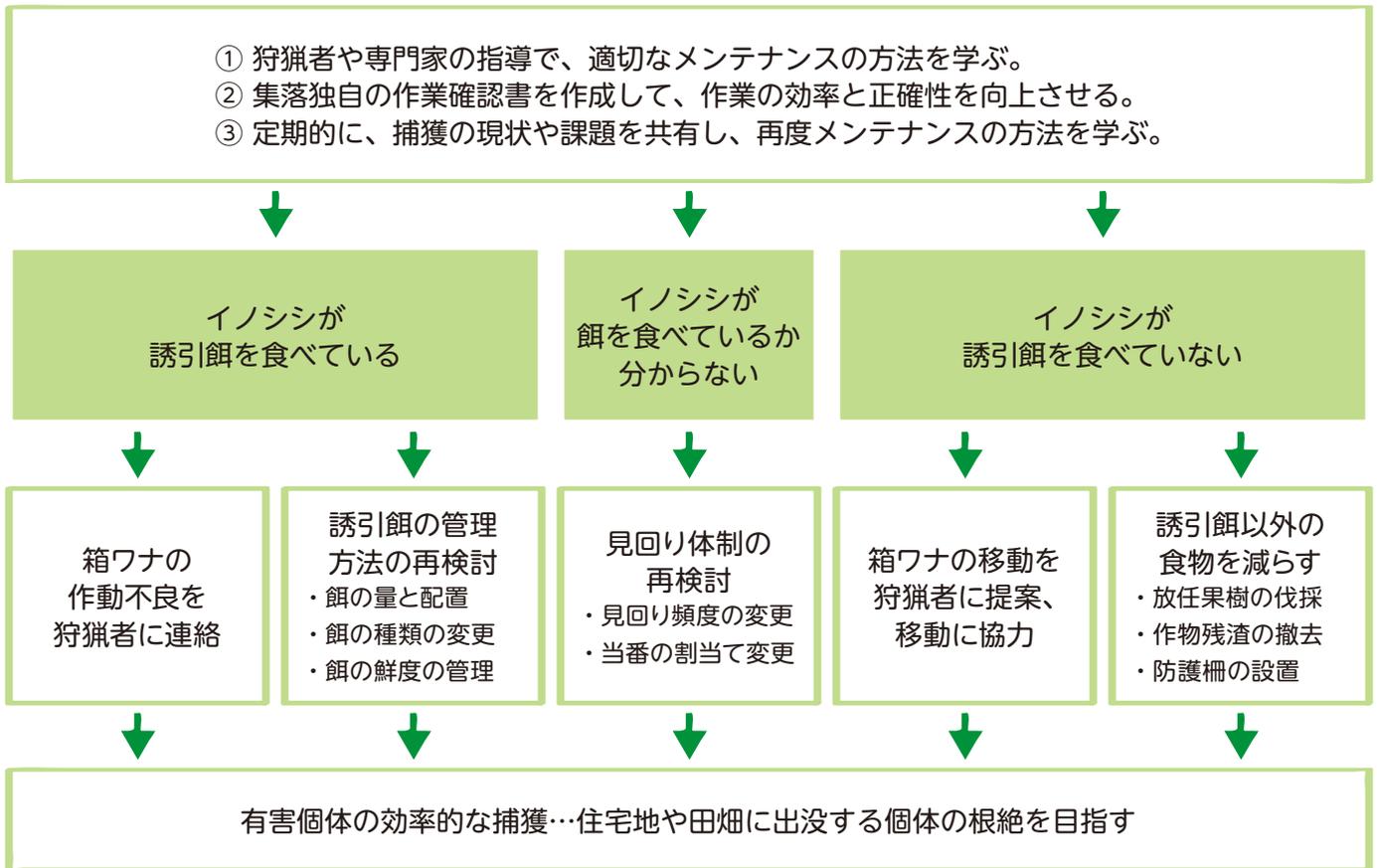
① 檻の設置場所の検討

集落診断や個人が持っているイノシシの出没・侵入情報を箱ワナの設置場所に活かしましょう。現在、箱ワナを設置している所にイノシシの痕跡や出没がない場合は、再び集落点検を行い、イノシシの動きを把握して、適切な場所に箱ワナを移しましょう。

② 捕獲効率を上げるための改善策

捕獲を継続する上で、成果が上がりやる気が持続することが重要です。協働捕獲の改善方法を 25 ページに示しました。

【捕獲のサポート】 狩猟者との連携



■集落での情報共有の改善方法

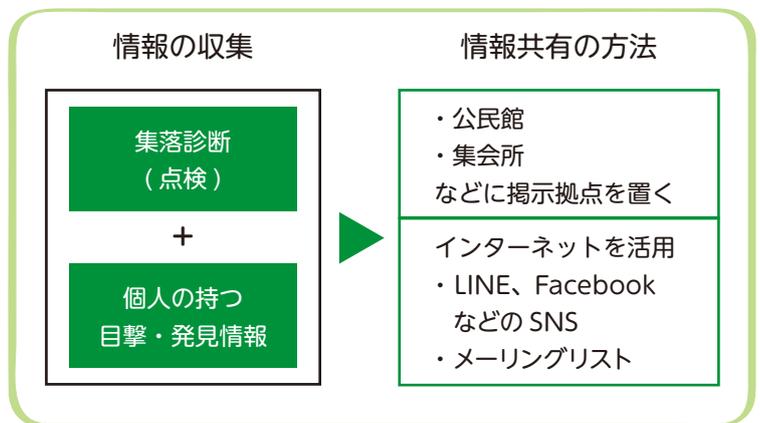
【集落点検の定期的な開催と共有】

集落点検を定期的に開催し、集落ぐるみで情報を共有して被害対策の効果を高めま

す。
情報共有には、集落点検の結果だけでなく、個人が持っている防護に関する成功体験、失敗体験も重要です。集まった情報は、右の図のように地域の人たちが寄り合う様々な場所で共有し、情報が一層集まるように情報記入票（例参照）などを作成し、設置しておきます。

【情報共有の仕組みづくり】

- ①貼り出し、書き込み拠点を設けます。
- ②座談会や食事会などを開催し、情報の広がり収集の機会を増やします。
- ③集落点検の地図を貼り出し、結果を伝えるだけでなく、書き込みができるようにします。



情報記入票（例）→

記録項目	内容
発見したもの（○をつける）	・獣類(種名) ・柵の破損 ・ケモノの侵入路
日付	
場所/柵番号	
頭数とサイズ	何頭を目撃 小・中・大
その他のお知らせ	

3人寄れば文殊の知恵。力を合わせて獣害を乗り越えましょう！

Plan 点検

Do 処方箋

Check 効果をチェック

Act 最適化

事例の紹介

学んで活かそう先進事例

ここでは、被害対策で効果を上げた取り組みを紹介します。参考とする事例には「技術面」と「仕組み」の二つがあります。徳島県は中山間地域が多くを占めますので、土地柄にあうものを3つ紹介します。

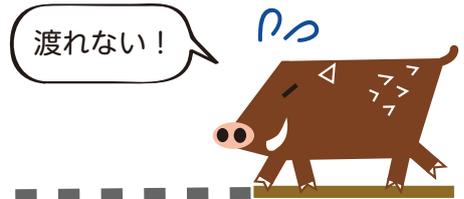
●事例1

テキサスゲートによるイノシシの侵入防止（徳島県）

防護柵を設置することができない公道や生活道は動物の侵入防止対策上の弱点となります。そこで、テキサスゲートの効果試験を行った結果、侵入防止効果が高いことが分かりました。

テキサスゲートとは、防護柵の出入口となる道路面に、格子状の金属板を設置した箇所のことです。本来は牧草地で牛馬の出入りを制限するために開発されたものですが、足の小さなイノシシやシカに適應できるよう進化させました。

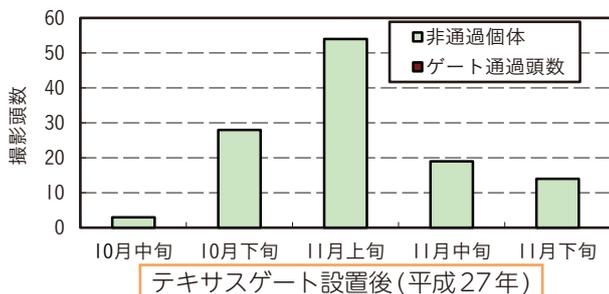
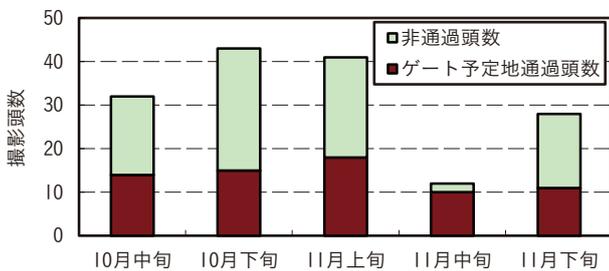
扉開閉の管理が不要なので負担が軽減できます。



写真の通り、特殊な構造のグレーチングのため、ひづめを持つ動物は滑ったり、グレーチングがひづめに食い込んだりするため通行できません。一方、人や車は問題無く通過できます。

【設置方法】

通常、防護柵は農地の全方位を囲い込みます（右下写真）。防護柵の空いている箇所があれば、ケモノは、そこから侵入してきます。テキサスゲートを設置した出入口だけ防護柵（扉）を設けず、開放するつくりにして侵入防止効果を検証しました。結果は下のグラフのとおり、設置後の侵入はなくなりました。



設置前と設置後の違いは歴然！
高い侵入防止効果がありました。

●事例 2

有害鳥獣との棲み分けで地域を守る～天空の「松尾集落」(熊本県)

熊本県球磨郡あさぎり町松尾集落(人口9名)は県中央に位置し、イノシシ、サル、シカの被害で悩まされていました。そこで、獣害対策の専門家である井上雅夫氏の指導を受けて集落ぐるみで集落の存続をかけた取り組みをスタート。7.5kmの防護柵を設置し、集落ぐるみで**獣害ゼロ**を成し遂げました。

これが評価され、平成27年度に農林水産大臣賞を受賞し、優良活動として表彰されました。

■松尾集落の取り組み

- ①「中山間地域等直接支払事業」により、活動組織を結成したことがきっかけ。
- ②県から井上氏を紹介され、現地にてアドバイスを得る。
- ③集落ぐるみで被害(出没箇所と被害地)の分析を行う。
- ④痕跡や被害情報から有害獣の侵入口図を作成。
- ⑤イノシシ、シカ、サルに効果的な防護柵の設置ラインの見直しや追加設置を決定(補助金不足でも自己資金で設置)。
- ⑥設置ラインの両側5m幅の木々を伐採(サル対策)。
- ⑦作物残渣の管理、柿や管理できない果樹の伐採。
- ⑧エリアの管理者(連絡先看板を柵に設置)を決めて除草、被害の確認、追出し時の呼び掛けを実施。
- ⑨遠山桜祭りや栗狩体験などのイベント開催。
- ⑩ワラビの酢漬け加工場を開設し製造販売。
- ⑪防護柵内で省力化できる栗栽培を推進。



■取り組みの成果

- ・獣害対策の取り組みを進めたことで、集落の結束がより強固になっています。
- ・熊本県立大学の研修交流会や地域の小学校の体験学習を受け入れ、様々な人とつながる機会が増えました。
- ・遠山桜祭り、獣害対策の視察研修などがワラビ加工品をはじめとする産物の販売機会になり、中山間松尾集落加工部会の励みになっています。



遠山桜祭り



加工品の開発・販売

ここがポイント! 【成果の理由】

- ・集落自ら獣害解決のため専門家に相談し、アドバイスに従って集落ぐるみで的確に動いた!
- ・狩猟者に頼れない状況のため、集落ぐるみで要因除去、防護柵設置・管理を徹底した!
- ・防護柵設置に伴い農地の団地化を進め各ブロックの管理担当者を決定!(担当者と連絡先は柵に明記)
- ・将来像を持ち、イベント開催や6次産業の展開などで地域活性化を進めた!

● 事例3

雲仙市鳥獣被害対策実施隊 ～人から人へ つながる広がるイノシシ対策～（長崎県）

雲仙市では平成18年にイノシシの被害額がピークとなり、その後も被害が減少しなかったことから、本格的なイノシシ対策の取り組みをスタートしました。市と住民との連携による「鳥獣被害対策実施隊（以下、実施隊）」の活動は大きな成果を上げ、平成26年に農林水産大臣賞を受賞しています。

■「実施隊」の活動

- ①市は、職員による被害対策の実践指導を図るため、長崎県主催イノシシ対策A級インストラクター養成講座を利用して人材育成を進めた。
- ②A級インストラクターの市職員を中心に実施隊を設置し、被害対策研修会や「出前講座」などを開催。
- ③4名の青年農業者（民間実施隊員）を取り入れ体制強化。
- ④「イノシシの棲みかとなる耕作放棄地の解消」と「防護柵の点検・管理、環境整備」に取り組む。
- ⑤集落環境点検を行い、集めた現地情報から「集落環境マップ」を作成。公民館等に掲示して住民間で情報共有。
- ⑥痕跡調査とセンサーカメラ等を用いたイノシシ行動調査も実施し、正しい知識や情報を住民に普及。
- ⑦棲み分け対策として、圃場周辺の緩衝帯の整備エリアで再び草が繁茂しないように、ヤギなどの家畜放牧を推奨。
- ⑦捕獲対策では、実施隊員4名が狩猟免許を取得し、猟友会と協力しながら、ワナの設置方法やエサの撒き方、捕獲に適した場所の選定など捕獲指導を行う。
- ⑧被害対策の新たな担い手育成活動として、住民主体で進める仕組みづくりを推進。



■取り組みの成果

住民意識に変化が起きています。例えば、青年農業者が農業経験豊富な農家に対して防護柵の点検指導や捕獲作業を率先して行うことで、「若者が頑張っているのだから自分たちも頑張ろう！」と対策への意識や意欲に変化が生じています。

また、指導する側の青年農業者もベテラン農家から認められるようになり、地域ぐるみで対策に取り組む環境が醸成されつつあります。

ここがポイント！ 【成果の理由】

- ・市が率先して人材育成を行い、リーダーを育てて正しい情報を普及！
- ・これにより要因除去や捕獲推進など地域が主体的に取り組むようになった！
- ・地域の若者を巻き込み世代を超えた農業交流（地域ぐるみ）につなげた！

イノシシ被害対策プログラム
(2018年3月版)

企画・発行：徳島県

制作協力・
写真提供：

株式会社
地域環境計画
生きものと共生する地域づくり **ちいかん**

イラスト：すずきみほ

鳥獣被害対策.com

デザイン：中木原まい